

在シドニー総領事通信

第17回 シドニーのクッタバル号と特殊潜航艇 — 「私たちは忘れません。」

令和2年（2020年）6月19日

6月1日、NSW州ではパブやレストランの50人までの入店や州内の旅行が認められるなど、規制が大きく緩和されました。社会がいよいよ「コロナ後」に向けて動き始めました。

この日は、実は日豪の歴史にとっても大事な日です。今から78年前の1942年5月31日夜から6月1日未明にかけて、日本軍の特殊潜航艇がシドニー湾を攻撃し、豪側は水兵21名、日本側は乗員6名が犠牲者となりました。

6月1日の朝、シドニー湾のクッタバル海軍基地で、日豪双方の犠牲者のために追悼式典が開催され、私は日本政府代表として献花を行いました。

日豪両国は、この攻撃の当時は敵国同士でしたが、戦後は友好関係を発展させ、今では安全保障・防衛分野でも緊密に協力しています。追悼式典に出席して、時の流れを実感しました。

今回の総領事通信では、この追悼式典の様子を皆様にお伝えするとともに、日本軍の特殊潜航艇のシドニー湾攻撃から現在に至る歴史とその意義を、皆様と一緒に振り返りたいと思います。



クッタバル号沈没追悼式典（2020年6月1日，豪海軍）

「1942年クッタバル号沈没追悼式典（Memorial Service, Sinking of HMAS Kuttabul 1942）」は、新型コロナウイルス対策のため例年より規模を縮小しましたが、好天に恵まれ、ミード豪海軍艦隊司令官とシャンド・クッタバル海軍基地司令、ハドソン＝ディーン当地米国総領事、ドビー当地ニュージーランド総領事の参列を得て、6月1日朝に開催されました。

式典では、宿泊用船舶クッタバル号の沈没で犠牲となった豪兵19名・英兵2名の階級・氏名とともに、特殊潜航艇3隻の乗員として犠牲となった日本兵6名の階級・氏名が一人一人読み上げられました。

引き続き、ミード司令官と私が並んで献花を行い、米国総領事、ニュージーランド総領事、クッタバル海軍基地司令も献花を行いました。



クッタバル号沈没追悼式典での軍葬ラッパ (Last Post)
(2020年6月1日, 豪海軍)

追悼詩 (Ode), 軍葬ラッパ (Last Post), 黙禱など一連の行事の最後に, 豪日米ニューージーランド4カ国の国歌が演奏され, 式典が終了しました。

その後, 基地内にあるヘリテージセンターに移動し, そこで保管・展示されている特殊潜航艇 (松尾艇 (M-22)) の司令塔部分に, ミード司令官と私が並んで献花を行いました。

史料によれば, 5月31日夜, 特殊潜航艇3隻のうち最初に中馬艇 (M-27) が湾に侵入しようとしたが, 湾の入り口に張られていた防潜網に引っかかって身動きが取れなくなり, 乗員は自爆を選びました。

次に伴艇 (M-24) が湾内に侵入して, ガーデン島海軍基地に停泊していた米海軍巡洋艦シカゴに向けて水雷2本を発射しました。いずれも命中せず, 1本は不発で, もう1本は岸壁に当たって爆発し, その衝撃で宿泊用船舶クッタバル号が沈没し, 豪英兵21名が死亡しました。その後, 伴艇は行方不明となりました。

最後に湾に入った松尾艇 (M-22) は, 豪海軍の爆雷攻撃を受けて, シドニー湾内のテイラー湾で沈められ, 乗員は拳銃自殺しました。



AUSTRALIAN WAR MEMORIAL

060696

テイラー湾で引き上げられた松尾艇（M-22）
（1942年6月、オーストラリア戦争記念館所蔵）

この戦闘後、中馬艇（M-27）と松尾艇（M-22）は引き上げられ、乗員4名の遺体はシドニー東部郊外の葬儀場に移送されました。そして、6月9日に豪海軍により、ミュアヘッド＝グールド・シドニー湾防衛司令官の出席のもと、正式な海軍葬が挙行されました。その様子は豪国営ラジオ放送が録音し、日本に向けて放送されています。

7月下旬、ミュアヘッド＝グールド司令官は国営ラジオ放送で海軍葬決定について説明しました。司令官はその中で、軍として栄誉を与えたのは、彼らの勇気が敵味方に共通する世界中で賛美されるべき勇気であり、彼らは最高の愛国者たちだったからだと述べています。これは日本に向けても放送されました。この原稿は、今もNSW州図書館に保存されています。

4名の遺灰は日豪交換船に乗せられて8月にメルボルンを出発し、10月に横浜に到着しました。12月には山本五十六連合艦隊総司令官の感状（戦勲を讃える賞状）が下され、翌年4月には呉で海軍合同葬が行われるなど、英雄の扱いを受けました。



AUSTRALIAN WAR MEMORIAL

135591

国立戦争記念館でランカスター館長から
千人針を受け取る松尾敬宇の母まつ枝
(1968年5月1日、オーストラリア戦争記念館)

戦後の1963年、国立戦争記念館に展示されていた千人針が、特殊潜航艇の内部から見つかったものと確認され、更に調査したところ、松尾艇の松尾敬宇司令が身に着けていたものと判明しました。

同館のマグマース館長は、1965年に観光で訪日した際、松尾司令の郷里の熊本県山鹿市を訪問して母の松尾まつ枝と会いました。1968年、今度は松尾まつ枝がオーストラリアを訪問しました。シドニーではテイラー湾の沈没現場訪問とマーティンプレイスの戦没者記念碑での献花を行い、キャンベラではゴートン連邦政府首相を表敬し、国立戦争記念館で後任のランカスター館長から千人針の返還を受けました。松尾まつ枝は、シドニー攻撃の歴史にもかかわらず温かく迎えられ、その模様は広く報道されました。

2002年、オーストラリアを訪問した小泉純一郎内閣総理大臣は、キャンベラ国会議事堂内での昼食会のスピーチで、特殊潜航艇の乗員に海軍葬を行い遺灰を

返還したこと、そして乗員の母の松尾まつ枝をオーストラリア国民と連邦政府首相が温かく迎えたことに感銘を受けていると述べました。



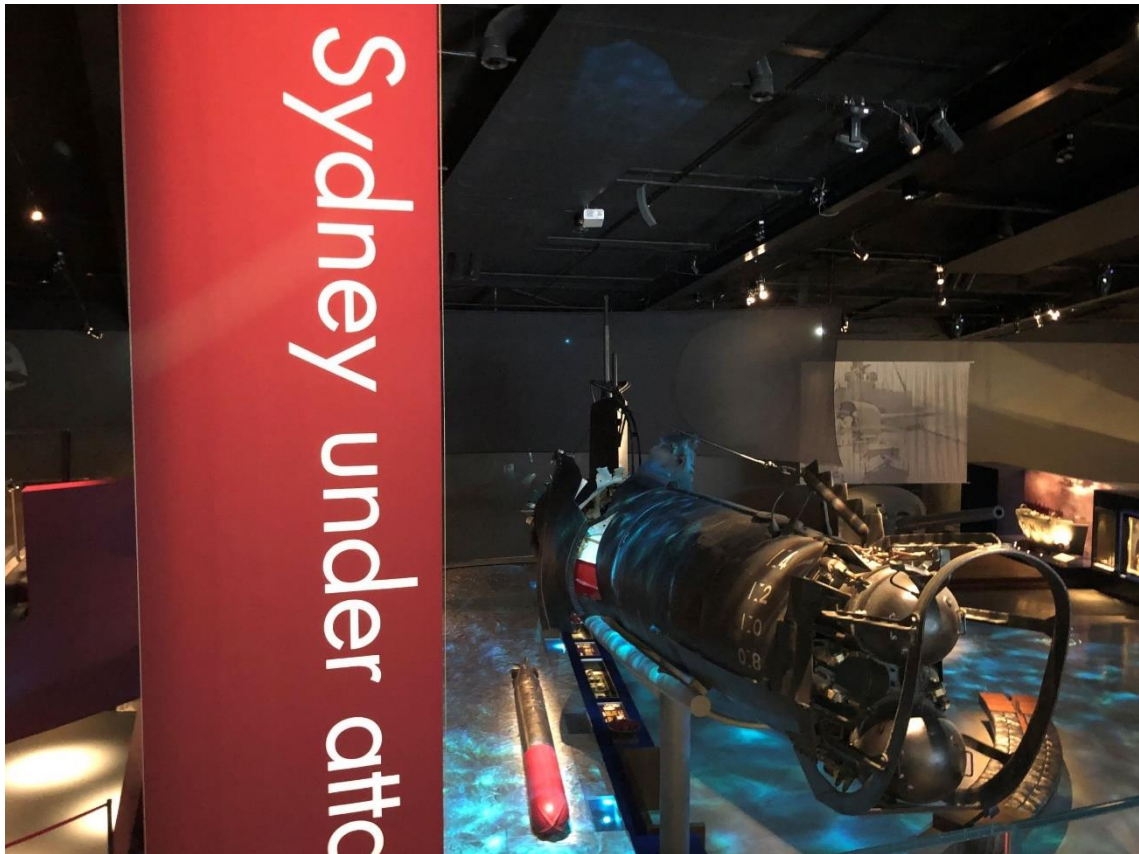
シドニー沖の海底にある伴艇（M-24）（NSW 州環境省 HP）

2006 年 11 月に新たな進展がありました。シドニーのアマチュア・ダイバーたちが、シドニー湾外から北へ 20 キロの海底に、行方不明だった伴艇（M-24）が沈んでいるのを発見したのです。

2007 年 8 月には、11 名の遺族とビルソン退役軍人大臣、シャルダース豪海軍参謀長、上田駐豪大使、川田在シドニー総領事他の出席を得て、ガーデン島のクッタバル海軍基地での海上自衛隊練習艦隊乗員が参列する追悼式典と、駆逐艦メルボルン号甲板での洋上の追悼式典が開催されました。

2013 年 5 月 17 日には、茶道裏千家 15 代家元の千玄室大宗匠が、沿岸警備艇で現場に行き、秋元駐豪大使、小原在シドニー総領事はじめ日豪関係者が見守る中で、追悼献茶式を行いました。

NSW 州環境省遺産局は、この伴艇（M-24）を海底文化遺産として調査・保護する先進的な取組を進め、2009 年には UNESCO から賞を授与されています。海底に眠る M-24 の姿や 3D モデルは、NSW 州環境省のウェブ展示で見ることができます。



オーストラリア戦争記念館の展示（2019年11月11日）

現在、キャンベラのオーストラリア戦争記念館には、海底から引き揚げられた中馬艇（M-27）と松尾艇（M-22）を組み合わせた特殊潜航艇が展示され、当時の歴史を伝えています。

私自身、昨年11月にこの展示を訪れ、日豪間の重要な事件がこのように見える形で語り継がれていることを知りました。

特殊潜航艇のシドニー攻撃は、今や日豪間の一つの絆となっています。海上自衛隊の練習艦隊や南極観測船・砕氷艦しらせがシドニーに寄港する際には、必ず艦長がクッタバル海軍基地を訪問してクッタバル号記念碑に献花し、日豪双方の犠牲者を追悼するとともに、豪海軍との交流を深めています。



シドニー湾入り口の朝（2020年6月8日）

78年前、日豪はこのシドニーで一戦を交え、クッタバル号と特殊潜航艇の双方で犠牲者を出しました。今、日豪は友好国となり、両国の犠牲者をともに追悼するようになりました。そして、今年は戦後75周年を迎えます。

犠牲者は生き返りません。私たちが今できることは、犠牲者を忘れないこと、そしてそれを土台にして、新たな犠牲者を出さないよう友好関係を強化していくことだと思います。

日豪双方の関係者は、長い時間をかけて、特殊潜航艇のシドニー攻撃の歴史を語り継いできました。今シドニーに住む私たちも、この歴史について学び、後世に語り継いでいくことで、日豪両国の絆を一層深め、更に幅広い分野で協力を進める基盤をともに作っていければ幸いです。

クッタバル号沈没追悼式典の記事 (Navy Daily, 2020年6月5日) (英語)

<https://news.navy.gov.au/en/Jun2020/events/5885#.XuxNHkX7Q2x>

豪日研究プロジェクト (オーストラリア戦争記念館)

http://ajrp.awm.gov.au/ajrp/ajrp2.nsf/Web-Pages/HomePage_J

田村恵子「戦争の遺物とその移動がもたらしたもの : 日本軍特殊潜航艇シドニー湾攻撃のその後」(人文学報(京都大学人文科学研究所)第102号(2012年3月))

https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/156396/1/102_23.pdf

豪海軍・特殊潜航艇のシドニー攻撃 (英語)

<https://www.navy.gov.au/history/feature-histories/japanese-midget-submarine-attack-sydney-harbour>

退役軍人省・特殊潜航艇のシドニー攻撃 (英語)

<https://anzacportal.dva.gov.au/wars-and-missions/world-war-ii-1939-1945/events/australia-under-attack-1940-1945/sydney-harbour>

国立海事博物館・特殊潜航艇のシドニー攻撃 (英語)

<https://www.sea.museum/2017/06/14/midget-submarine-attack-on-sydney-31-may-1-june-1942>

熊本県山鹿市教育委員会「軍神から日豪親善のかけはしに—松尾敬宇」

<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/www/contents/1281667313180/files/matuo.pdf>

ガーデン島クッタバル号記念碑 (英語)

<https://www.warmemorialsregister.nsw.gov.au/content/hmas-kuttabal-memorial-garden-island>

豪海軍ヘリテージセンター (英語)

<https://www.navy.gov.au/ran-heritage-centre>

M-24 特殊潜航艇ウェブ展示 (NSW州環境省) (英語)

<https://www.environment.nsw.gov.au/M24/index.htm>

蒲田真弓編『日本とオーストラリアの太平洋戦争: 記憶の国境線を問う』(お茶の水書房, 2012年)

(以上)